

令和6年7月29日（月曜日）



七つのパートで息の合った音を奏でる盛岡二高箏曲部

## 日本音楽・盛岡二箏曲部

# 息の合った重奏磨く

日本音楽部門に出場する盛岡二高箏曲部（佐藤春菜部長、部員24人）は創部40周年の節目。文部科学大臣賞6回の実績を持ち、今回も上位入賞を目指す。佐藤部長（3年）は「先生方や家族に恩返しできるよう、一音一音丁寧に集大成の演奏にした」と意気込む。

発表するのは現代曲「風と光と空」と。約9分間の3部構成で、吹き荒れる風の厳しさや星の瞬く光、空へ飛び立つ勢いなど情景を表現。7パートに分かれて14面の箏が重なり合い、迫力ある音楽を奏でる。

近年で最も多いパート数で挑戦。副部長の山本愛さん（3年）は「重奏がぴったり合ったときはびっくりするほど楽しい」と笑顔。「みんな素直に意見を言い合える雰囲気。大事に、最後まで調整していく」と気合十分だ。

1984年の創部以来、指導を続ける黒沢和雄さん（83）、千賀子さん（80）夫妻は「大人数の学校もある中、最後の1音まで神経を使い、印象に残る演奏をしてほしい」と期待を込める。

本番には2年生9人、3年生5人が出場する。佐藤部長は「ほとんど初心者から始めたメンバー。息を整え、悔いのない発表をしたい」と大舞台へ臨む。

（岩手日報）

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。